

効果的な施策を展開するための考え方の点検ツール
～地域包括ケアシステムの深化・推進に向けて～

点検ツールのねらいと活用方法のご紹介

2023年4月
(株)日本総合研究所

点検ツールのねらい

なぜいま、地域包括ケアシステムの「機能性の点検」なのか？

1 地域のビジョンの共有と分野横断的・統合的なマネジメントへ

地域のビジョンや目標を改めて検討する

- これまで、高齢者・介護部局が中心となって、地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みが行われてきました。しかし、これからの少子高齢化のさらなる進展や地域ごとの事情も踏まえると、各分野・領域を超えて共有できるよう、全体最適化の観点から機能性を高める取り組みが不可欠です。
- もとより地域包括ケアシステムを構成する社会資源や体制等は、それらが相互に連携することで大きな効果が期待されるものです。地域包括ケアシステム構築の節目となる2025年を迎えようとする現在、「わがまちの地域包括ケアシステムとは」を改めて見直し、地域のビジョンや目標を再度明確化することが大切です。

2 資源や事業の整備から、機能性の発揮への転換

全ての社会資源や体制等を最適化し、効率的に繋ぐことが重要

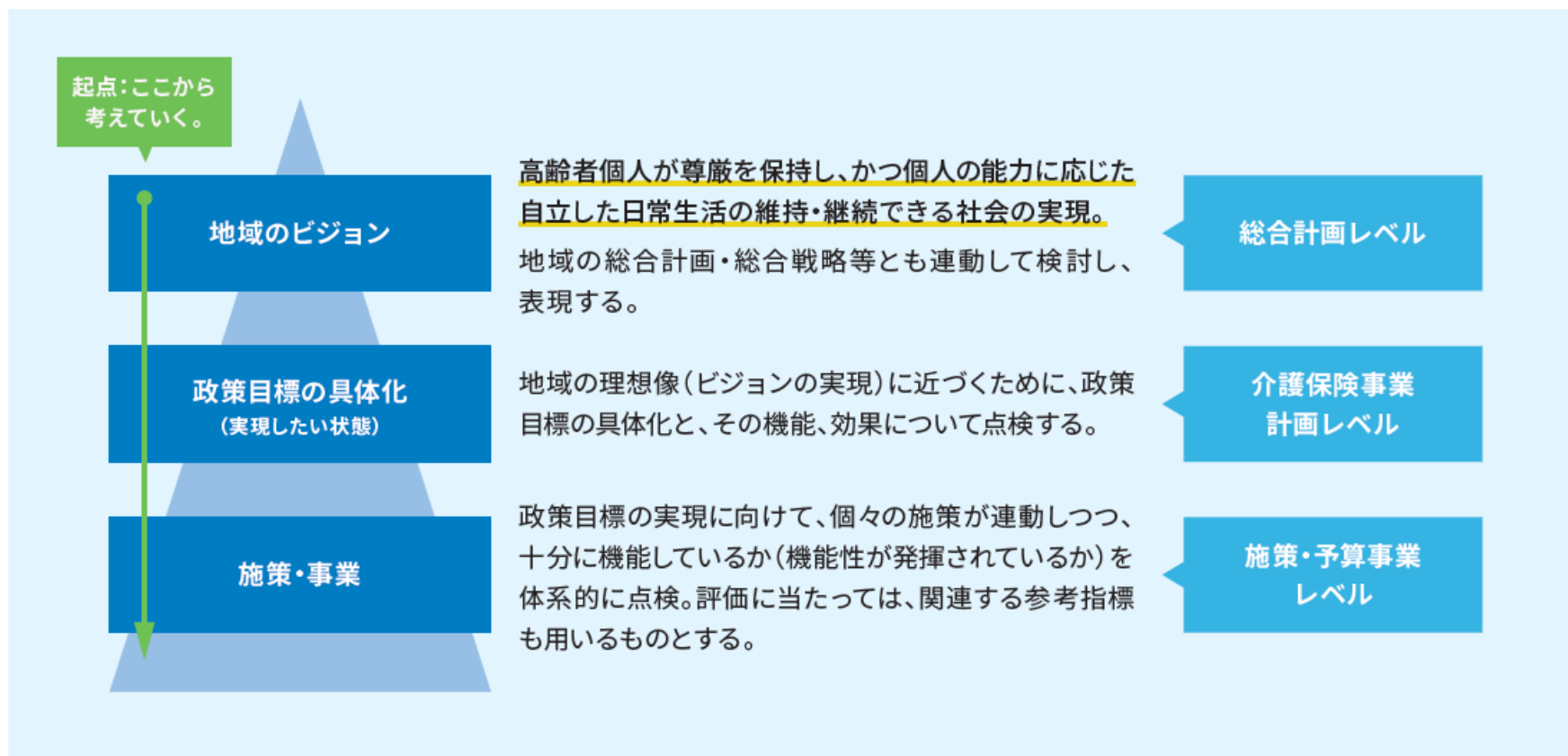
- 社会資源の整備のみならず、既に地域にある社会資源や体制を工夫して改善し、その機能性を高めることこそが、地域づくりの基本的な方向となります。このため、『保険者』としてだけでなく、全庁的な体制を含めた、『自治体』としての状況の点検・評価が重要です。
- したがって、地域の総合計画等との整合性を図りながら、「ビジョン」を起点に、関係部局とも連携の上、政策・施策・事業のあり方を考え、ひとつひとつの取り組みの成果が上位の目標にどのように貢献しているか、さらに効果的なものとするにはどのような工夫があり得るかを振り返る必要があります。
- 本ツールは、上位目標に照らして施策・事業の位置づけを振り返り、施策・事業を「機能性(=目標とすべき状態の実現に資するように機能しているか)」に着目して見直す視点を提供します。

なぜいま、地域包括ケアシステムの「機能性の点検」なのか？

「ビジョン」を起点に施策・事業のあり方を考え、

ひとつひとつの取組の成果が上位の目標にどのように貢献したかを振り返る。

「機能」面で目標とすべき状態の実現に資しているかを分解して点検する



これまでの検討経緯

前述の背景にもとづき、令和3年度に、自治体における点検の考え方とそのための方針、参考となる指標等を整理した「点検ツール」をとりまとめた。
さらに令和4年度には、前年度に策定したものをを用いて全国11か所の自治体で実証を行い、点検ツールのブラッシュアップを行った。

令和3年度




点検の考え方と方針、参考となる指標等を整理した「点検ツール」をとりまとめて公表



令和4年度

全国11か所の自治体で実証
⇒点検ツールのブラッシュアップを実施

各地域でご活用いただけるよう以下を公開

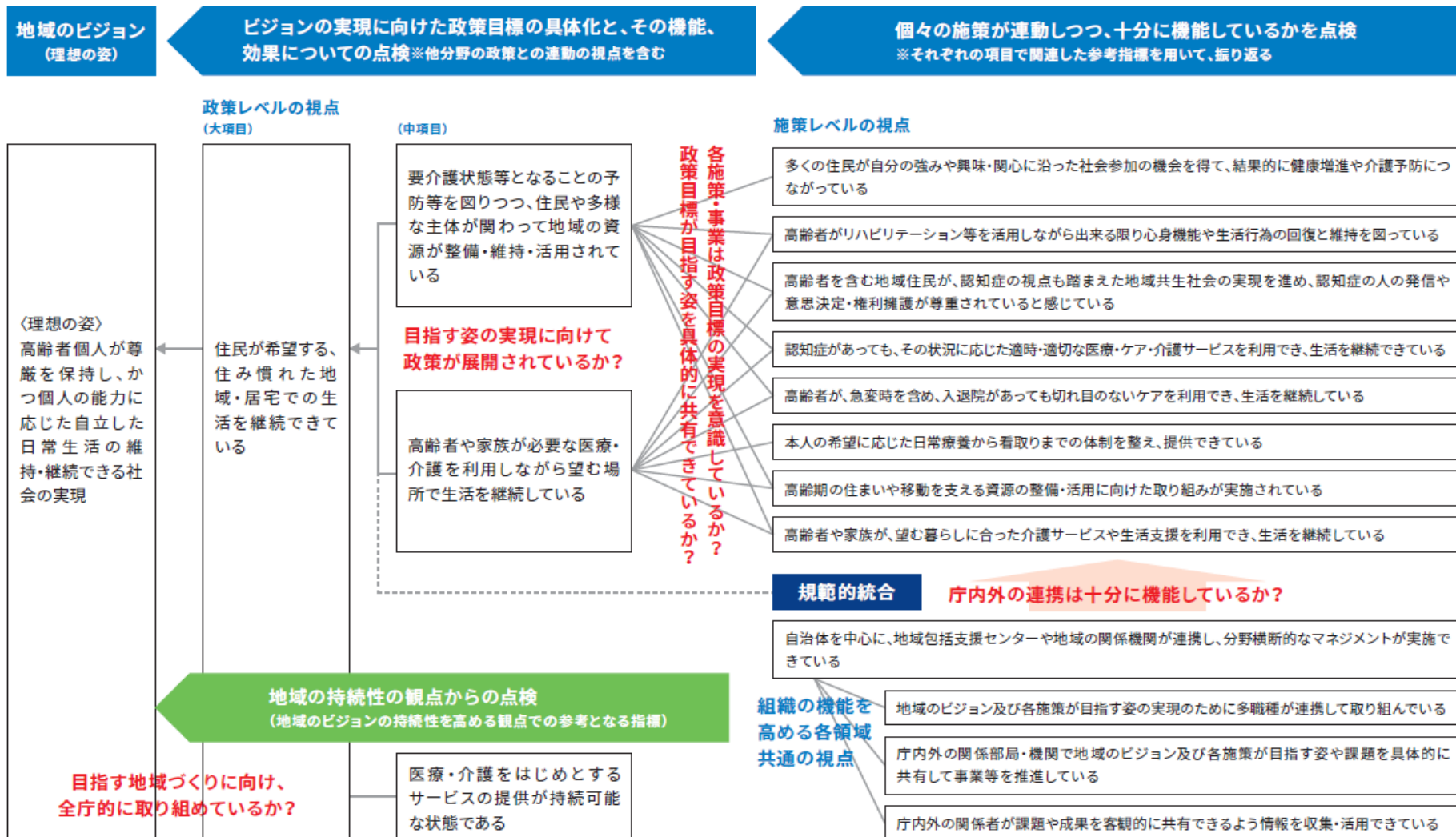
- 
ツール概要資料
(本資料)
- 
ツール本体
(記入や編集が可能な形式)
- 
ツール活用の
手引き

目標に対して手段が合っているか、手段が十分な効果をあげているかを、実施できていない施策・事業を洗い出すチェックリストの考え方ではなく、機能性の観点で点検するもの

- この点検ツールは、各市町村が、地域包括ケアシステムの構築という「目標」の達成に向けて、介護・福祉分野やそれ以外の資源を活用した施策という「手段」が十分な効果をあげているかを、できる限り客観的な指標も参照しつつ点検するためのツールです。
- 地域資源は有限であることから、この点検ツールは、評価指標の全ての項目が満たされているかを見るためのものとして設計したものではありません。同様に、介護保険分野の資源の整備状況の多寡の確認を直接の目的としたものでもありません。
- 本ツールは、「地域のビジョン」(＝高齢者個人が尊厳を保持し、かつ個人の能力に応じた自立した日常生活の維持・継続できる社会の実現)という「目標」の実現に向けて、その下位に位置付けられた施策や事業という「手段」による取組が十分に成果を挙げ、貢献しているかを振り返り、施策や事業について取り組むべき課題を明らかにしたり、優先順位を検討する際の視点を提供することを目的としています。
- 点検の結果、成果が出ていない、成果に貢献しない施策等は、優先的に見直すことが必要です。同じ成果を挙げることを目的とした手段の中で、より効率性の高い取組に重点化することも考えられます。
- 本ツールは、住まい・医療・介護・予防・生活支援といった個別の施策に位置付けられた事業取組が十分に連携され、「機能性」(＝目標とすべき状態の実現に資するように機能しているか)の観点から、施策の展開をより効果的なものとするための考え方の点検に役立てて頂けるものとしてとりまとめたものです。

点検の枠組みと視点

本ツールが前提とする点検の枠組みと視点は以下の通り。



本ツールによる点検の流れ

本ツールを利用した点検の流れは以下の通り。

点検ツール本体は、以下の流れに沿って、担当者や庁内関係者がそれぞれ検討結果を記入・共有できるような形式となっている。

1 | 視点に関する現在の取り組みの洗い出し

✓ この視点に関する現在実施している取り組みを洗い出す

2 | 視点に関連した目指す姿の振り返り

✓ この視点に関して、既存の(上位)計画で位置付けられている目指す姿を振り返る

3 | 目指す姿の実現状況の仮評価

- これまでの結果、地域の強み
- 実現できていない要因の検討

✓ 目指す姿の実現に向けた、現時点での実現状況を「仮評価」する

4 | 解決すべき要因の検討(仮の絞り込み)

✓ 目指す姿に向けてさらに推進するうえで解決すべき要因(仮説)を検討し、列記する

5 | 知りたいことの洗い出し、利用可能な情報の収集・整理

✓ まずは知りたいことを洗い出し、さらに利用可能な情報を収集・整理

6 | 確認結果を踏まえた今後の取り組みの検討

- 取り組みをさらに良くするための工夫
(事業の組み立ての見直し、事業実施方法の工夫など)
- 庁内連携や情報の収集・活用など体制等の改善方策

✓ 上記の確認結果を踏まえ、施策の展開をより効果的なものとするための工夫や見直しをまとめる

➡ 次の施策の検討に反映・活用

関係者とともに適宜、3〜5を繰り返す

点検ツールは、下記のように、各自治体での点検作業に際して、それぞれ入力・編集できるような形式(電子ファイル)で提供。担当者だけでなく、庁内の関係者で情報を共有しながら活用が可能。

点検ツールのイメージ(抜粋)と特徴

点検の視点やその解説を、各シートに分かりやすく記載

一部に選択肢形式を設けるなど、記入しやすい様式

点検の視点に沿った点検結果の記入欄を用意

記入にあたっての解説や参考情報を表示する機能を組み込み

ツール) 社会参加・介護予防

かつ個人の能力に応じ自立した日常生活の維持・継続による社会の実現
た地域・層での生活を継続させている
【取組レベルの検出(点検項目)】: 審判選状態等と異なることの子供等も回りつつ、住民や多様な主体が関わって地域の資源の整備・確保・活用されている
【結果・事業レベルでの継続性を点検する視点】: 多くの住民が自分の強みや興味・関心に沿った社会参加の機会を得て、結果的に健康増進や介護予防につながっている

【この視点の概要】
地域に暮らす高齢者が望む生活の実現とともに、地域の新たな課題を捉えその解決に多くの力を発揮していくためには、高齢者を含む地域住民の強みや興味・関心を活かした社会参加の充実が大切です。また社会参加の機会を増やしたり提供したりすることは、結果的に健康増進や介護予防にもつながることが期待できます。高齢者の強みや興味・関心に着眼して、多様な社会参加の機会を提供され、結果的に健康増進や介護予防につながるよう、自治体での取組状況を具体的に共有し、民生の課題とそれに対する施策がどう対応しているかを点検します。

【点検項目】

1. この視点に関連して現在行っている取り組みを洗い出す
・最初に、この視点に関して現在どのような取り組みを行っているかを考えましょう。関連する取り組みは、次に、それらの取り組みによって現状がどう変わると期待していたかを考えましょう。(人の行動や考え)

2. この視点について、目指す姿がどのようなものかを振り返る
・自分たちの地域では、住民の社会参加・介護予防についてどのような姿を目指しているか、具体的に
・例えば、総合高齢や介護予防事業計画等ではどのように実現しているか確認してみましょう。

3. 目指す姿の実現状況を仮で評価する
・2で書いたことが現時点でどの程度実現できているか、

4. 解決すべきと考えられる要因を選ぶ
・3で挙げた複数の要因の中から、とくに「解決すべきと考えられる要因」として重要と思うものを絞り込んでみましょう。まずは直観で良いので「即の絞り込み」を行い、後の項目5で関連する情報を集めて確認したのちに、さらに加筆修正してください。

(1) 目指す姿の実現状況(以下から一つを選択)
○ 概ね実現できている …… 目指す姿も具体的に共有し、成果も現れている
○ ほぼ実現できている …… 目指す姿は共有できているが、成果が現れているのが少ない
○ 概ね実現できていない …… 一部の部分はあるが、目指す姿を共有できていない
○ ほとんど実現できていない …… これが原因か別の取り組みを検討している

(2) これまでの成果(特にこれからの取り組みに活用できる取り組みを書き出してみましょう)
例えば、この視点に関連する地域の強みや、これまでに培われた地域資源を洗い出してください

(3) まだ実現できていない部分について、なぜ、着目が生じているのでしょうか?
要因として考えられるものを挙げてみましょう

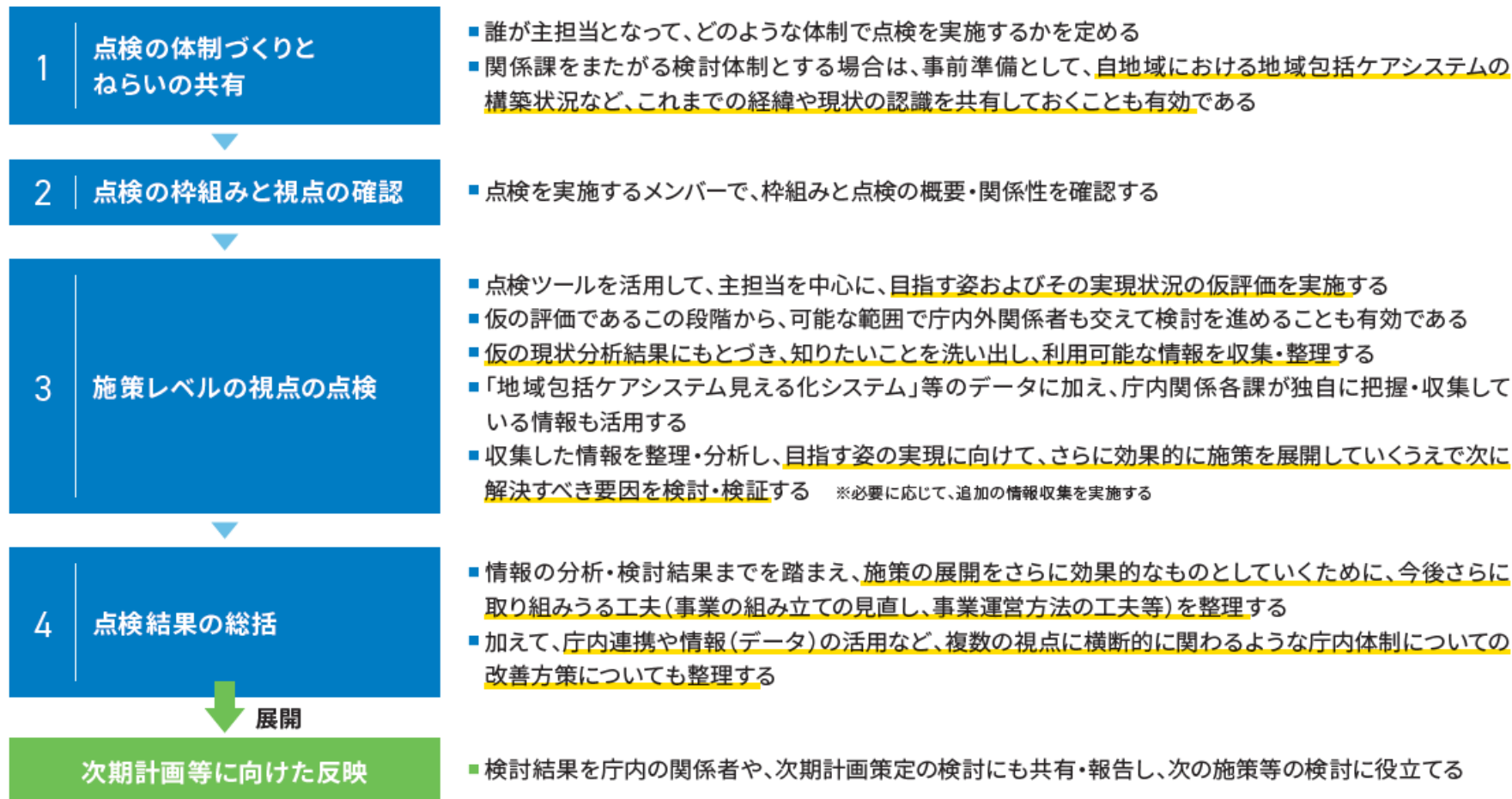
(解説) 要因の例

(解説) 要因の検討や絞り込みの参考となる情報

点検の実手順(例)

モデル事業での実施結果を踏まえると、本ツールを活用した点検の実手順(例)として、以下のような進め方が考えられる。

なお、小規模な自治体では、本ツールが示す視点の一部だけを利用した点検も有効である。



本ツールの活用メリット

本ツールを活用するメリット

- これまでも事業レベルの評価は行われてきました。一方で、施策・事業ごとの評価を意識しすぎるあまり、縦割りに陥ってしまう難しさもあります。
- 本ツールを活用することで地域のビジョンに照らして施策が何を目指していると関連する事業等がどのように位置づけているのかを点検し、施策をより効果的に展開するために、今後どのような工夫や見直しが考えられるかを明らかにできます。
- また、点検ツール(様式)を活用することで、目指す姿や関連する現在の取り組み、今後の工夫などを庁内外の関係者とともに共有・検討しやすくすることができます。

本ツールを活用していただきたい場面

- 本ツールは、上位目標に照らして施策の位置づけを振り返り、より効果的に展開できるようなものとなっているかを点検するものです。
- したがって、これまでの施策を点検して新たな施策の展開を組み立てる場面で特にご活用いただくことを想定しています。

施策・事業の振り返りや新規立案でよくある悩み

普段担当する事業が、上位目標に照らしてどのように位置づけられるかを考えるのが難しい・・・



保険者機能指標などの結果をどう解釈して、次の施策・事業を組み立てれば良いか分からない・・・



本ツールの活用により

「そもそも何のため」の事業だったかを確認し、事業で解決すべき課題や目標、他の事業との連携の視点を得られる



「なぜ、何のために」新たな施策・事業を組み立てるのかを、理事者等に対して、体系的に説明できる視点を得られる

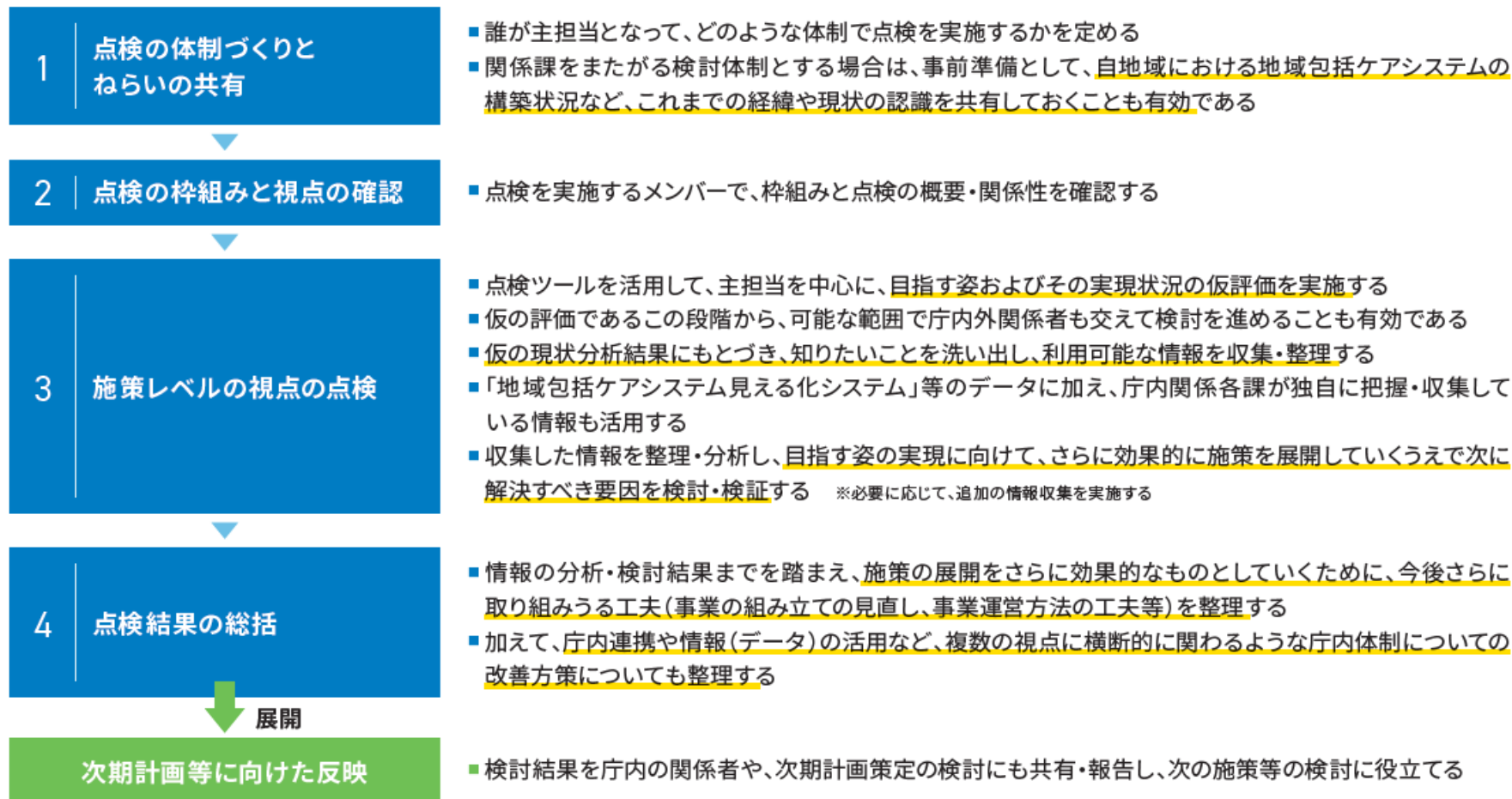


点検ツールの具体的な活用方法

(再掲) 点検の実施手順 (例)

モデル事業での実施結果を踏まえると、本ツールを活用した点検の実施手順(例)として、以下のような進め方が考えられる。

なお、小規模な自治体では、本ツールが示す視点の一部だけを利用した点検も有効である。



本ツールを活用した点検では、特に以下の点にご留意ください。



あくまでも地域のビジョン（上位目標）の実現に照らして、施策や事業間の効果的な展開を考える



ツールの枠を埋めることを目的とするのではなく、このツールを使った検討を通じて施策や事業間の連携について、庁内外の関係者と振り返ることを重視する



**振り返りで気づいた視点や課題を、次の計画の策定につなげる
具体的な施策や事業の組み立て方は、様々なマニュアルや手引きを参照する**

(再掲) 本ツールによる点検の流れ

本ツールを利用した点検の流れは以下の通り。

点検ツール本体は、以下の流れに沿って、担当者や庁内関係者がそれぞれ検討結果を記入・共有できるような形式となっている。

1 | 視点に関する現在の取り組みの洗い出し

✓ この視点に関する現在実施している取り組みを洗い出す

2 | 視点に関連した目指す姿の振り返り

✓ この視点に関して、既存の(上位)計画で位置付けられている目指す姿を振り返る

3 | 目指す姿の実現状況の仮評価

- これまでの結果、地域の強み
- 実現できていない要因の検討

✓ 目指す姿の実現に向けた、現時点での実現状況を「仮評価」する

4 | 解決すべき要因の検討(仮の絞り込み)

✓ 目指す姿に向けてさらに推進するうえで解決すべき要因(仮説)を検討し、列記する

5 | 知りたいことの洗い出し、利用可能な情報の収集・整理

✓ まずは知りたいことを洗い出し、さらに利用可能な情報を収集・整理

6 | 確認結果を踏まえた今後の取り組みの検討

- 取り組みをさらに良くするための工夫
(事業の組み立ての見直し、事業実施方法の工夫など)
- 庁内連携や情報の収集・活用など体制等の改善方策

✓ 上記の確認結果を踏まえ、施策の展開をより効果的なものとするための工夫や見直しをまとめる

➡ 次の施策の検討に反映・活用

関係者とともに適宜、3〜5を繰り返す

1. 視点に関する現在の取り組みの洗い出し

〈効果的な施策を展開するための考え方の点検ツール〉 社会参加・介護予防

【この視点の位置づけ】

地域のビジョン（理想の姿）：高齢者個人が尊厳を保持し、かつ個人の能力に応じ自立した日常生活の維持・継続できる社会の実現

↳政策レベルの視点（大項目）：住民が希望する、住み慣れた地域・居宅での生活を継続できている

↳政策レベルの視点（中項目）：要介護状態等となることの予防等を図りつつ、住民や多様な主体が関わって地域の資源が整備・維持・活用されている

↳施策・事業レベルでの機能性を点検する視点：**多くの住民が自分の強みや興味・関心に沿った社会参加の機会を得て、結果的に健康増進や介護予防につながっている**

【この視点の概要】

地域に暮らす高齢者が望む生活の実現とともに、地域の新たな課題を捉えその解決に多くの力を結集していくためには、生活支援も組み合わせ、高齢者を含む地域住民の強みや興味・関心を活かした社会参加の充実が大切です。また社会参加の機会を増やしたり維持したりすることは、結果的に健康増進や介護予防にもつながることが期待できます。

高齢者の強みや興味・関心に着目した多様な社会参加の機会が提供され、自らが活躍しやすい生活支援などと併せて、結果的に健康増進や介護予防につながるよう、自地域での目指す姿を具体的に共有し、現在の課題とそれに各事業等がどう対応しているかを点検します。

【点検項目】

1. この視点に関連して現在行っている取り組みを洗い出す

- ・初めに、この視点に関して現在どのような取り組みを行っているかを書きましょう。関連する取り組みはできるだけ多く挙げましょう。
- ・次に、それらの取り組みによって現状がどう変わると期待していたかを書きましょう。（人の行動や考え方が変わる、体制・制度が充実するなど）

取り組みの目的と内容

左記の取り組みによって現状がどう変わることを期待したか

（もしあれば）左記の取り組みを評価する指標として定めたもの

この視点に関連しそうな、
現在実施している取り組み
を書き出す

左の欄に書いた
取り組みのねらいを
書き出す

目標値など指標を
設定していれば記載
※なければ空欄でOK

2. 視点に関連した目指す姿の振り返り

2. この視点について、目指す姿がどのようなものを振り返る

- ・自分たちの地域では、住民の社会参加・介護予防についてどのような姿を目指しているかを、具体的に記載してください。
- ・例えば、総合戦略や介護保険事業計画等ではどのように表現しているか確認してみましょう。

この視点について、どのような「目指す姿」を掲げているかを探し、書き出す
※介護保険事業計画だけでなく、地域福祉計画等の関連する計画や
長期ビジョンや基本構想、総合計画（総合戦略）なども参照してみる
※計画には位置付けていないが、関係者の間で実質的に合意・共有されている
ものがあればそれを書いても良い

3. 目指す姿の実現状況の仮評価

あくまで「仮」で良いので
目指す姿の実現状況を選ぶ

3. 目指す姿の実現状況を仮で評価する

・2で書いたことが現時点でどの程度実現できているか、これまでの成果および今後の課題の要因は何か、仮の評価をしてみましょう。※ここではあくまでも「仮の評価」で構いません

(1) 目指す姿の実現状況（以下から一つを選択）

- 概ね実現できている …… 目指す姿を具体的に共有し、成果も現れている
- なかば実現できている …… 目指す姿は共有できているが、成果が現れるのはこれからである
- あまり実現できていない …… 取り組みはあるが、目指す姿を共有できていない
- ほとんど実現できていない …… これから目指す姿や取り組みを具体化していく

(3) まだ実現できていない部分について、なぜ、乖離が生じているのでしょうか？

要因として考えられるものを挙げてみましょう

〈解説〉 要因の例

(2) これまでの成果（特にこれからの取り組みに活用できる強みを書き出してみましょう）

例えば、この視点に関連する地域の強み、これまでに培われた地域資源を洗い出してください

右の欄に書いた“強み”も踏まえつつ、上の欄で
選択した実現状況をさらに高めていくために
解決すべき要因を考えて、書き出す
※「要因の例」の解説も参照

この視点に関連して、これまでの
取り組みで得られた結果や成果、
地域の“強み”（地域資源）を
洗い出して記載する

3. 目指す姿の実現状況の仮評価

〈点検ツール解説〉 社会参加・介護予防

〔解説〕 要因の例

シートに戻る←

・目指す姿に近づく上で、「ここが障壁になっているかもしれない」と思いつくことを挙げてみましょう。誰のどういった状況が障壁になっていそうかを具体的に考えると良いでしょう。これらをヒントにしながら自分たちの地域に引き寄せて考えましょう。

(要因の例)

住民：

- ・社会参加が健康増進や介護予防につながることを意識していない
- ・関心に合った地域の活動を知って参画するきっかけが少ない

地域の多様な活動主体：

- ・高齢者がフレイル等で参加・就労を諦めるのは仕方ないと思い込んでいる

生活支援コーディネーターや専門職：

- ・インフォーマルや民間サービスなどの地域資源を詳しく知らない

体制・制度：

- ・地域の様々な活動について関係部署で共有しきれていない

これはあくまでも例示だが、誰にとっての要因か、視点をヒントにして各地域での要因の洗い出しを進める

4. 解決すべき要因の検討（仮の絞り込み）

4. 解決すべきと考えられる要因を選ぶ

・ 3で挙げた複数の要因の中から、とくに「解決すべきと考えられる要因」として重要と考えられるものを絞り込んでみましょう。

※まずは仮説で良いので「仮の絞り込み」を行い、後の項目5で関連する情報を集めて確認したのちに、さらに加筆修正してください。

〈解説〉
要因の検討や
絞り込みの
参考となる情報

前の項目で洗い出した要因のなかから、特に解決すべきと考えられる要因を選ぶ

※ここでは一旦、「仮の絞り込み」で良い

※このあと、関連する情報やデータを集めて検討してから、改めて検討して要因を再整理する

4. 解決すべき要因の検討（仮の絞り込み）

〔解説〕 解決すべきと考えられる要因を選ぶ

シートに戻る

- ・ここでは、3で選んだ複数の要因の中から、とくに「解決すべきと考えられる要因」として重要と考えられるものを絞り込んでみましょう。
- ・まずは仮説で良いので「仮の絞り込み」を行い、後の項目5で関連する情報を集めて確認したのちに、さらに加筆修正してください。

（記入例）

- ・趣味サークルに関心があっても、「もう歳だから」と諦めてしまう人が多い
- ・通いの場を自分たちで作ろうと思う人が少ない
- ・退職した人が地域活動に関わる機会を得にくい

- ・なお、複数の要因を整理したり、多くある要因から特に解決すべきと考えられる要因を絞りこむためには、以下の文献も参考となります。これらも参考にしながらご検討ください。
（下記資料のリンク先は、各文献が掲載されている外部サイトに移ります）

- [介護予防の取組強化・推進のための市町村マニュアル（令和4年3月）（厚生労働省委託事業（令和3年度介護予防活動普及展開事業））](#)
- [介護予防マニュアル第4版](#)

これはあくまでも例示だが、誰にとっての要因が特に重要なのかを検討して記載する
※この視点での検討の手掛かりとして、参考文献も活用

5. 知りたいことの洗い出し、利用可能な情報の収集・整理

5. 知りたいことを挙げ、情報を集める

- ・まず、1～4に挙げた事項に関して「知りたいこと」を挙げましょう。 ※この段階ではその情報を入手したり利用したりできるかの可能性は一旦考えずに書き出してください。
- ・次に「知りたいこと」について、可能な範囲で情報を集め、関係者とともに分析・議論を行いましょう。

(1) 1～4に挙げた事項に関して「知りたいこと」を挙げましょう
※この段階ではその情報の利用可能性は一旦考えずに書き出しましょう。

⇒ (1) の入力欄を表示

(2) 「知りたいこと」について、可能な範囲で情報を集め、関係者とともに分析・議論を行いましょう。
※ここで活用できる情報の例については、入力欄の参考情報を参照ください。

⇒ (2) の入力欄を表示

5. (1) 知りたいことを挙げる

- ・1～4に挙げた事項に関して知りたいことを挙げてみましょう。
- ※この段階ではその情報の利用可能性は一旦考えずに書き出しましょう。

**情報やデータが利用可能かに捉われず、
ひとまず「知りたいこと」を挙げる**

5 (1) ① 目指す姿の実現状況に関連して知りたいことは何ですか？

No.	「目指す姿の実現状況」に関連して知
1	
2	
3	
4	

5. (2) 関係者とともに「知りたいこと」を確認する

- ・5. (1)で挙げた「知りたいこと」について、情報・データの収集・分析や、関係者との議論を行いましょう。

5 (2) ① 参考となる情報やデータ（収集結果）とまとめ

No.	「目指す姿の達成状況」に関連する情報やデータ
1	
2	
4	

目指す姿の実現状況（まとめ）

**「知りたいこと」に関連
する情報やデータを
集めて簡記する**

〈解説〉 活用可能な情報やデータについて

点検項目に戻る

5. 知りたいことの洗い出し、利用可能な情報の収集・整理

〔解説〕 活用可能な情報やデータ

[シートに戻る](#)

- ・この視点での「目指す姿の達成状況」や「成果、強み」あるいは「解決すべきと考えられる要因」の状況について、活用可能な情報やデータを例示します。
- ・これらをヒントにしながら、各地域で独自に把握している情報やデータも踏まえ、自分たちの地域に引き寄せて「知りたいことを挙げる」で洗い出した項目の検討に使える情報やデータを考えてみましょう。

指標 (例)	定義	出所
地域での活動への参加状況	65歳以上の方のうち地域での活動（ボランティアのグループ、スポーツ関係のグループやクラブ、趣味関係のグループ、学習・教養サークル、介護予防のための通いの場、老人クラブ、町内会・自治会、収入のある仕事）に1つ以上参加している人の割合	地域での活動への参加状況：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
要介護リスクの高い高齢者の割合	65歳以上の方のうち要支援1・2の認定者及び「基本チェックリスト」で事業対象者と判断された人の割合	・認定者数：介護保険事業状況報告 ・「基本チェックリスト」で事業対象者と判断された人 ※「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」結果を活用

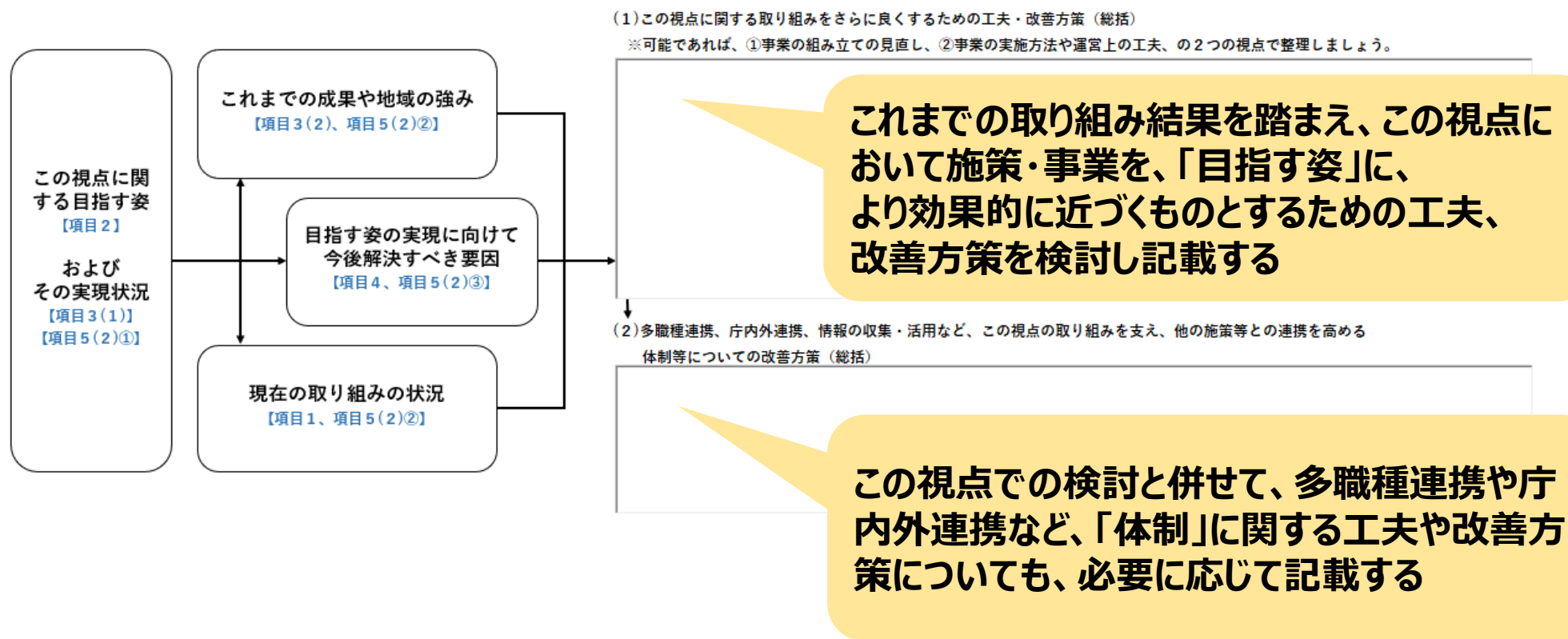
既存の指標やデータ等で、この視点に関連して使える可能性のあるものを例示

ここにある指標やデータに限らず、各地域（あるいは各課）で独自に把握している情報・データも参照

6. 確認結果を踏まえた今後の取り組みの検討

6. 確認結果を踏まえて取り組みの改善策を考える

- ・5までに整理したことを踏まえ、目指す姿に向けてさらに近づいていくために、今後の取り組みで見直すべき点や工夫したい点を考えましょう。
 - ・併せて、多職種連携、庁内外連携、情報の収集・活用など、この視点の取り組みを支え、他の施策等との連携を高める体制等についての改善方策も検討しましょう。
- ※本項目を検討するために必要があれば、項目1～5に戻ってさらに検討を深めてください。



6. 確認結果を踏まえた今後の取り組みの検討

効果的な施策を展開するための考え方の点検ツール 総括表

点検結果のまとめ〈総括表〉

施策・事業レベルでの機能性を点検する視点

多くの住民が自分の強みや興味・関心に沿った社会参加の機会を得て、結果的に健康増進や介護予防につながっている

高齢者がリハビリテーション等を活用しながらできる限り心身機能や生活行為の回復と維持を図っている

高齢者を含む地域住民が、認知症の視点も踏まえた地域共生社会の実現を進め、認知症の人の発信や意思決定・権利擁護が尊重されていると感じている

認知症があっても、その状況に応じた通時・適切な医療・ケア・介護サービスを利用でき、生活を継続できている

高齢者が、急変時を含め、入退院があっても切れ目のないケアを利用でき、生活を継続している

本人の希望に応じた日常療養から看取りまでの体制を整え、提供できている

高齢期の住まいや移動を支える資源の整備・活用に向けた取り組みが実施されている

高齢者や家族が、望む暮らしに合った介護サービスや生活支援を利用でき、生活を継続している

規範的統合

庁内外の連携は十分に機能しているか？

自治体を中心に、地域包括支援センターや地域の関係機関が連携し、分野横断的なマネジメントが実施できている

組織の機能を高める各領域共通の視点

地域のビジョンおよび各施策が目指す姿の実現のために多職種が連携して取り組んでいる

庁内外の関係部署・機関で地域のビジョンおよび各施策が目指す姿や課題を具体的に共有して事業等を推進している

庁内外の関係者が課題や成果を客観的に共有できるよう情報を収集・活用できている

各視点での目指す姿の実現状況および取り組みの成果 今後解決すべき要因（課題） 取り組みの改善策（総括）

各視点での目指す姿の実現状況および取り組みの成果	今後解決すべき要因（課題）	取り組みの改善策（総括）

各視点で検討した結果を踏まえ、点検結果の総括をまとめて記載する

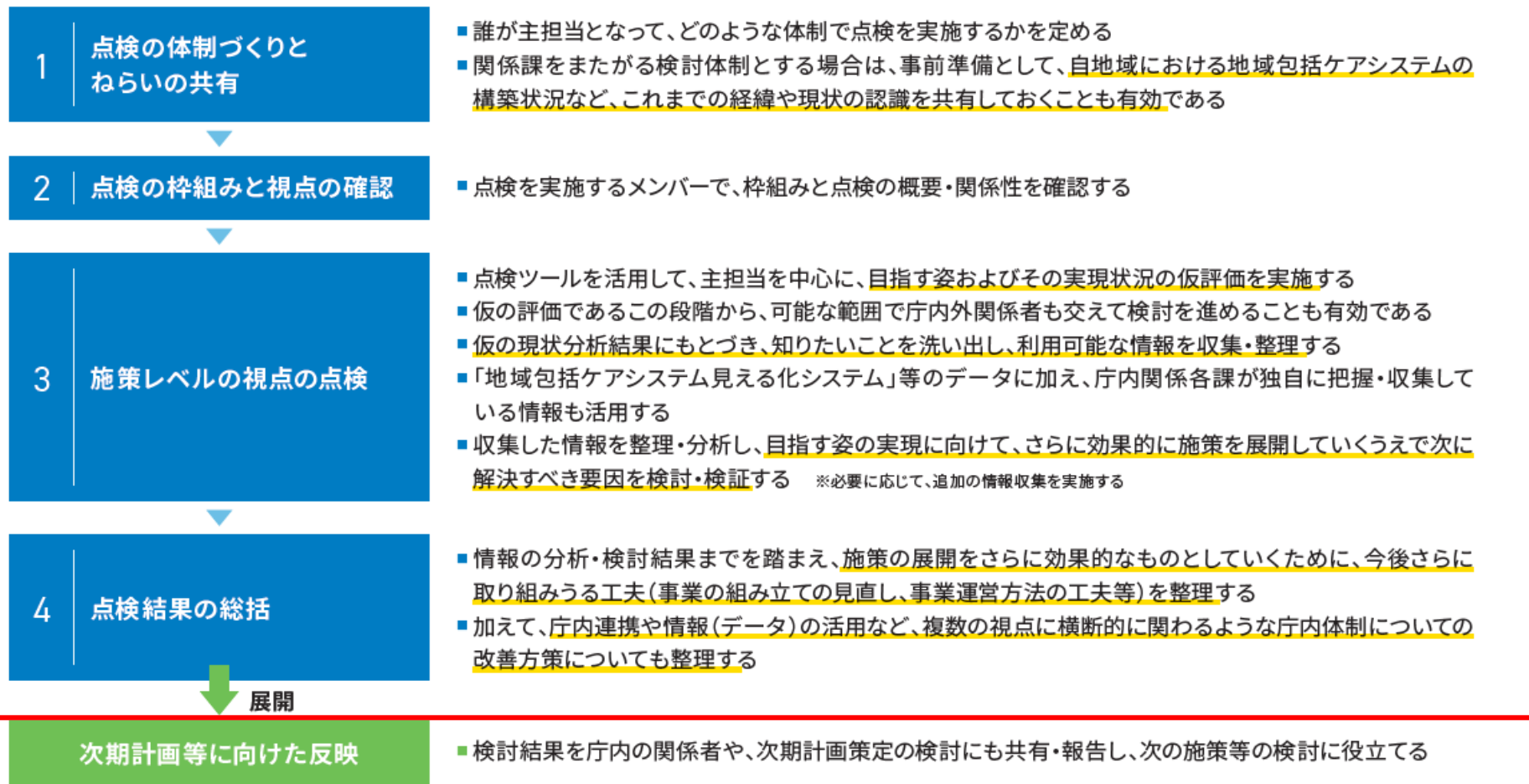
多職種連携、庁内外連携、情報の共有など、この視点の取り組みを支え、他の施策等との連携を高める上での改善方策（総括）

--

(再掲) 点検の実施手順 (例)

モデル事業での実施結果を踏まえると、本ツールを活用した点検の実施手順(例)として、以下のような進め方が考えられる。

なお、小規模な自治体では、本ツールが示す視点の一部だけを利用した点検も有効である。



本事業に関連する情報は以下から入手できます。ご参照ください。

地域包括ケアシステム

～効果的な施策を展開するための考え方の点検ツール～

ウェブサイト
(日本総研HP内)

https://www.jri.co.jp/service/special/content11/corner113/chk_tool/



掲載内容

- 点検ツール
 - 点検ツール
 - 概要説明資料
 - 概要説明資料の解説動画
 - 点検の手引き
- 本点検ツールに関するこれまでの調査研究事業報告

本ツールは、厚生労働省令和4年度老人保健健康増進等事業の一環で作成したものです。